

**しゅんぺい
日記!**

今年の2月からドットジェイピーという大学生インターンの受け入れを行いました。このドットジェイピーとは議員事務所や大使館等のインターンシップ、政策コンテストである「未来国会」といった体験型プログラムを通じ、若者の投票率向上を目的に活動している団体です。私もその理念に共感し、若い方と共に学び、少しでも政治に興味を持ってほしいという想いから受け入れを決めました。

私は昨年の選挙を経験して感じたことがあります。それは「若者を選挙に動かすことは難しい」ということです。それはなぜか。「自分が投票しても何も変わらない」という想い、特に地方の選挙ではそもそも選挙があることを知らない若い方が多くいます。若い方が政治離れしている原因は、私も含めて政治家にあると思います。政治にとって大事な要素として「発信力」があります。今回のコロナ禍ではその重要性を再認識しました。特に大阪の吉村知事が世論の評価を得ています。TV等の既存のメディア

はもちろん、自分の言葉で力強く発信する姿は同じ政治家として大変勉強になりました。

熊本でも様々な支援策が独自に示されていますが、果たして必要な方にその支援は届いているでしょうか。4月末、私は個人的にコロナ支援策が一目でわかるチラシを作成しました。支援者や市内の飲食店を中心に、打撃を受けているであろう皆さん一人一人に郵送しました。その結果100件近くの問い合わせをいただきました。これだけネットが普及していても、知らなかったという方が多くいらっしゃいました。「情報は自分で取りにいけ」と言われる方もいます。しかし私には「誰も見殺しにしてはならない。困っている人を一人残らず助ける」という信念があります。

一人一人に寄り添い、その行動をさらに加速させていきます。この難局を皆様とともに乗り切っていきましょう。




新風 しんぶう 南部しゅんぺい 県政レポート Vol.3

しゅんぺいレポート ●令和2年7月号

南部しゅんぺい後援会に新たに「あゆみの会」が誕生しました！

今年2月13日、南部しゅんぺい後援会に女性会員による「あゆみの会」（代表=瀬上カチ子）が誕生致しました。「あゆみの会」の名前の由来は、奥様の名前「歌歩子」から「歩」の字を取り、一步一步進んでいこうという願いを込めて命名されました。また、女性らしいイメージにという事で、ひらがなで表記する事にしました。女性の優しさと強いパワーが加わり、後援会組織が一段と強固なものとなります。「あゆみの会」では、今後の方にお手伝い頂き、更なるパワーアップをしていきたいと思っております。ご協力頂ける方は、下記へご連絡頂きます様、よろしくお願い申し上げます。

南部しゅんぺい後援会 会長 石坂 千歳 詳しくは南部隼平事務所 096-295-7972 までお問合せください。



「自民党新春の集い」石坂後援会会长と 熊本城稲荷神社初午大祭35代福男として 地域でのミニ集会（お声掛け頂ければ参上します） 経済環境常任委員会管外視察（ラオス大使館）

プロフィール

南部 隼平 熊本市出身 1985年（昭和60年）1月20日生まれ

《経歴》平成3年 熊本さくら幼稚園卒園
平成9年 熊本市立託麻北小学校卒業／野球部主将
平成12年 熊本大学附属中学校卒業／野球部主将
平成15年 熊本県立濟々黌高等学校卒業／野球部
平成20年 川崎医療福祉大学理学療法科卒業
平成29年 熊本機能病院退職
平成29年 株式会社 Smart Growth 設立
令和元年 熊本県議会議員 初当選



自宅にて（生後6ヶ月）



小学校の運動会（小学2年）



野球少年時代（小学6年）



高校野球部メンバーと（高校3年）



春の県大会決勝にて



南部隼平事務所 Tel 096-295-7972 Fax 096-221-6182

〒861-8010 熊本市東区上南部1丁目2-40 nanbu@smartgrowth.co.jp <http://nanbu-shunpei.jp/>



県議会議員として二年目を迎えるにあたり、多くの方々にご協力頂きました。感謝しています。新型コロナウイルスにより先行きが不透明な中、県議会議員として皆様に信頼して頂けるようスピード感を持って、さらに全力で働いていきます。

熊本県議最年少議員としての一年目は日々学びの連続でした。選挙前とはまた違った忙しさの中、昨年9月に初めての県議会一般質問に立たせていただきました。熊本県のグランドデザインをはじめ、多方面にわたり県政の方向性を問いました。また、所属する高速交通ネットワーク特別委員会では、JRの延伸問題や都市交通の在り方など、私の地元地域に関わる事業に対して議論を深めることができました。

4月から「農林水産常任委員会」の所属が決まりました。この委員会は全国6位の農業産出県である熊本（トマト、スイカは1位）の重要な産業を支える委員会で、この農林水産部は県庁の中で最も多くの職員・予算を有する部署です。私の地元である託麻地区は、昔から農業の盛んな地域です。農家の担い手不足が叫ばれる中、私と同世代の若手農家の皆様が、地域の農業を守るべく活躍しています。そんな方々の想いに寄り添い、熊本の農業の課題について、しっかりと訴えています。

今年度は9月議会での質問を予定しています。質問の内容は、コロナ禍及びコロナ後の熊本の未来をテーマに地元の課題を交えながら県政に対する私の考えを訴えます。5月に緊急事態宣言が解除されたが、まだ重たい空気が世の中を覆っています。熊本県としても医療体制の整備や感染予防対策、経済のV字回復への取り組みを進めています。

今回のレポートでは新型コロナウイルスへの対応や今後の見通し、これから熊本の未来について記しました。今後も皆様と共に、コロナに打ち勝つため全力で様々な課題に立ち向かい、行動していきたいと思います。

新しい生活様式のイメージ【県民の皆様にお願いすること】

1 手洗いで
ウイルスと
不安を
洗い流そう！



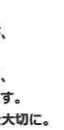
こまめな手洗いが何よりも大切です。

2 三密を
避けましょ



物理的に離れることが、相手を思いやり、大切にすることになり、心との距離を近づけます。
三密を避けて、家族や友人を大切に。

3 換気で
ウイルスを
吹き飛ばそう



換気することで、さわやかな空気を取り入れ、ウイルスは吹き飛ばしましょう。

4 だれだって
いつだって
感染しうるから、

思いやりの
咳工チケット
人を想う
やさしさが
いい明日を
つくる。



新型コロナウイルス感染症支援策をまとめた「自民党熊本県議団だより」をご覧ください。

ホームページにも掲載しております。



6月定期県議会は全員マスク着用で開かれました



自民党県議団オンライン会議にて

未来の熊本、アフターコロナの新しい街づくり

今、私たちは世界が未だかつて経験したことのない中国武漢発の新型コロナウイルスにさらされています。日本をはじめとした東アジアの国々、欧米においてその勢いは少しずつ収まりつつあります。しかし、アフリカや南米の国々ではさらなる感染の拡大が懸念されています。

世界経済の見通しは、世界銀行の報告によると世界経済成長率は5.2%減の見込みです。これは第二次世界大戦以来最悪の数字です。国内でも2020年度はマイナス成長の予測であり、熊本県も宿泊業や観光業、飲食業などを中心に大きな経済的ダメージを受けています。さらに第2波の懸念もあり、治療薬やワクチンができるまでは元通りの生活は難しいと考えられます。今後も今回のような新たな感染症によって、世界的な感染爆発を起こす恐れがあります。

コロナ時代を見据えた「地方都市として選ばれる熊本」とは？

私たちが危機的状況の中で輝きを取り戻すためには「大きな変革」が必要です。坂本龍馬は「時勢に応じて、自分を变革しろ」という言葉を残しています。私たち自身がコロナ禍という逆境を受け入れ、社会全体として変化していく必要があります。

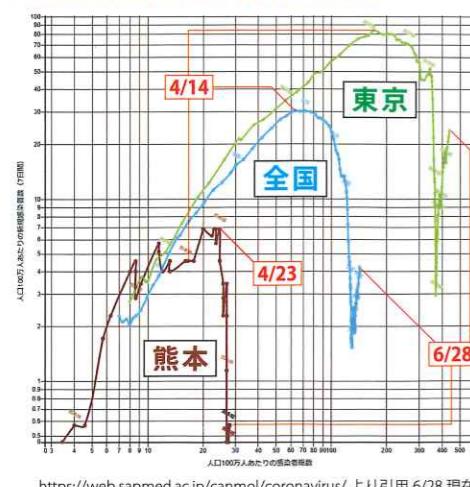
私たちが住む熊本がこの逆境の中、チャンスを掴むためにはどう変化しなくてはならないのか。そのヒントとなるのが「地方回帰」です。東京一極集中から地方回帰への流れが加速する可能性があるということです。三密を避けるため、テレワークやテレビ会議等の利用が進み、都心のオフィスで働く必要性はなくなっています。さらに今後も新たなウイルスの出現が予測されます。代表的な三密の電車・地下鉄が主な移動手段である大都市には住み続けたくないという人が出てきています。都市部からの地方回帰を促し、地方都市として選ばれるための「未来の熊本」について考えていきたいと思います。

●新型コロナ感染症状況

	PCR検査陽性者数	現在患者数	重症	退院	死亡	帰国者・接触者相談センター相談件数
熊本	49	4,273^{※1}	1	0	45	3
全国	18,083	839	43^{※2}	16,265	971	[6/29現在]

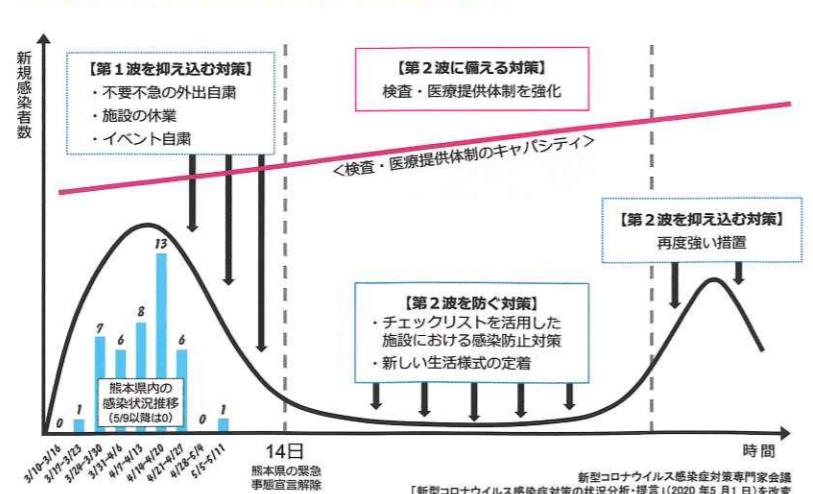
<https://www.stopcovid19.jp/> より引用 6/29 現在 ※1 <https://kumamoto.stopcovid19.jp/> より引用 6/28 現在 ※2 <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/> より引用 6/29 現在

100万人あたりの感染者数 経時比較

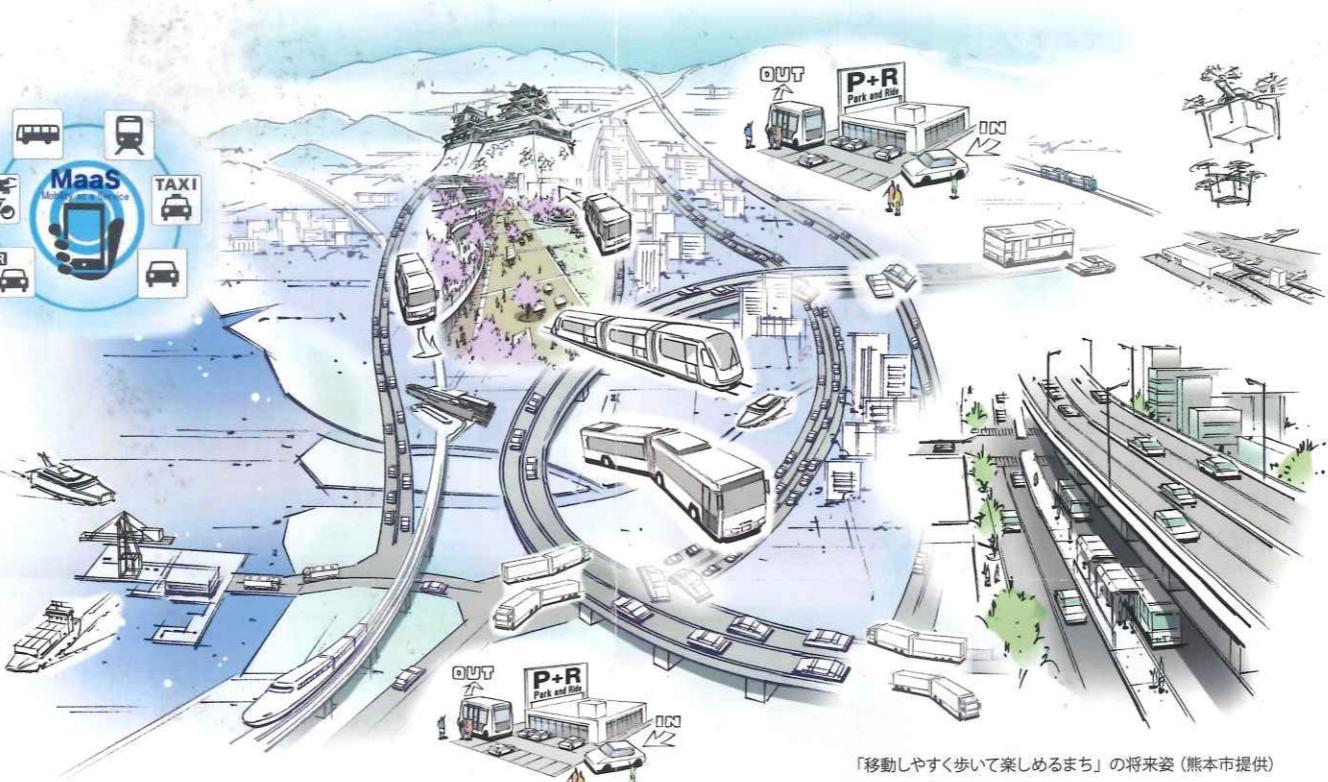


<https://web.sappmed.ac.jp/canmol/coronavirus/> より引用 6/28 現在

●新型コロナ感染症対策の今後の見通し



「新型コロナウイルス感染症対策実態分析・提言」(2020年5月1日)を改変



「移動しやすく歩いて楽しめるまち」の将来姿(熊本市提供)

未来の熊本① 最先端のスーパーシティ

去る5月27日、国会で最先端都市づくりを目指す「スーパーシティ構想」を盛り込んだ国家戦略特区法の改正案が成立しました。スーパーシティ構想とは住民や企業から集めた様々な情報を集約し、AI(人工知能)やブロックチェーンなどの最先端技術で連結させ、サービスに繋げるものです。具体的には複数の規制緩和を行い、テレワークや自動運転、キャッシュレス決済、ドローン配送、遠隔医療、遠隔教育などを進めることを想定しています。未来都市というと地方都市にはあまり関係ないと思うかもしれません、高齢化が進み過疎化している地域にこそ、その恩恵が大きいといえます。

そしてこの最先端のまちづくりには若い力、特に「Z世代」と呼ばれる24歳以下の「デジタル・ネイティブ世代」が鍵を握っています。生まれたときからすでにインターネットに慣れ親しんでいるこの世代を育て、その力を活用していかなくてはなりません。

現在のコロナ禍では、日本の「デジタル化の遅れ」が多くの分野で露呈しました。世界の国々から遅れを取り戻すべく全力でデジタル化を進めていかなくてはなりません。



未来の熊本② MaaS (新しい「移動」についての考え方)

MaaS (Mobility as a Service) とは移動のしやすさを、従来の交通手段(マイカーや電車など)つまり「モノ」の提供によってではなく、「サービス」によって実現するというものです。例えばライドシェア、カーシェアリング、自転車シェアリングなど自分の車を持たなくても、あらゆるサービスを組み合わせることで、環境にも優しく快適な移動手段に転換していくとする考え方です。トヨタの豊田章男社長はトヨタを「自動車を作る会社」から「モビリティカンパニー」にモデルチェンジすると表明しています。熊本は皆様ご存じの通り、典型的な車社会であり、熊本市の渋滞は政令市の中でワーストです(三大都市を除く)。確かに、必要な道路を作ることは重要です。しかし、30年以上渋滞に悩まされている熊本を変えるには、道路インフラというハード面とMaaSのようなソフト面からも対策を講じることが交通問題の早期解決に繋がります。

都市型(Urban) MaaSと地方型(Rural) MaaSの違い



豊富な交通手段がある都市型と限られた交通手段しかない地方型では、求められる利便性が異なる

楠田悦子・森口将之著「MaaSがまるごとわかる本」より引用

未来の熊本③ スポーツを中心とした街づくり

私は昨年の選挙で「熊本スポーツ特区の創設」と「熊本にプロ野球チームを作る」というマニフェストを掲げていました。

スポーツは多くの方の娯楽として、子供達に夢を与えるという役割があります。しかし、私が考えるスポーツの大きな役割は「地域をつなぎ、文化をつくる」ことです。地域にあるチームを地元のみんなで応援する、それが共通の話題となり地域が活気づく、そして違う地域との交流の場にもなることができます。

今後、コロナ禍を契機に、今まで以上に人と直接関わる機会が減っていき、地域のつながりや共に支えあう心が失われていく可能性があります。そんな中で地域が一丸となり、地方創生を成し遂げていくためには「地域共有のコンテンツ(話題)」をどうやって作っていくかが重要です。昨年のラグビーワールドカップは予想をはるかに超える盛り上がりとなりました。この日本全体の一感覚は簡単に作り出せるものではありません。スポーツには経済効果という価値だけではなく、「地域に豊かな社会と文化を作る」という、もっと重要な可能性があります。



北信越BCリーグ(独立リーグ)は盛り上がりを見せており、地域活性化に貢献している